

ぐんまの農業について ご紹介します

農林水産省関東農政局群馬県拠点
令和7年9月版

目 次

- ・はじめに
- ・群馬県の農林水産業の話題等
- ・群馬県拠点管内図
- ・群馬県の農林水産業の概要
- ・データで見る群馬県の農林水産業
- ・群馬の耕地
- ・群馬県の農業産出額
- ・群馬県の収穫量
- ・群馬県の畜産
- ・群馬県の農家数の推移
- ・特定産業分野別外国人労働者数
- ・群馬県の野生鳥獣被害の状況
- ・群馬県の六次産業化の状況
- ・G I (地理的表示保護制度)

はじめに

- ・群馬県は、日本列島のほぼ中央にあって、県西・県北の県境には山々が連なり、南東部には関東平野が開ける内陸県です。面積は約6362平方キロメートルで、その大きさは全国で21番目、関東地方では栃木県につぐ2番目です。県土の約6割が森林に覆われています。
- ・2000メートル級の山岳、尾瀬などの湿原、多くの湖沼、吾妻峡をはじめとする渓谷や利根の清流など、変化に富む美しい大自然にめぐまれています。
- ・南部に平坦地が広がり、西部や北部に山地が多い群馬県では、地域によって気候が異なります。
- ・平野部は、太平洋型の気候に加え、内陸であるため、夏はとても暑くなります。強い日差しで温められた空気が山を上がって雷雲となるため、雷が多いことも特徴的です。冬は、「空つ風」という冷たく乾燥した強い季節風が吹きます。
- ・山間部では、夏でも冷涼な気候を生かして、夏秋キャベツの栽培がさかんです。冬は季節風の影響で、雪がとても多く降ります。
- ・群馬県では、恵まれた自然条件や立地条件を活かし、年間を通して多彩な野菜生産が行われており、全国でも上位の野菜生産県として首都圏への重要な野菜供給産地となっています。
- ・群馬県では、年間で約12,000頭前後の牛が県内2ヶ所の食肉処理場において処理されています。また、交雑種（乳用種雌×肉用種雄）が70%以上を占めるという特徴があります。
- ・群馬県では、年間で約700,000頭前後の豚が県内2ヶ所の食肉処理場において処理されています。

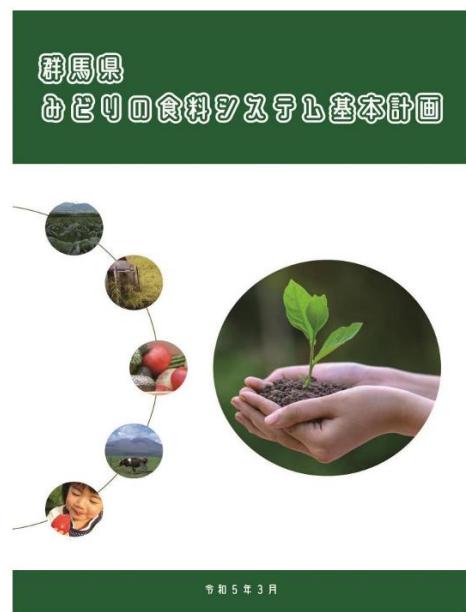
群馬県の農林水産業の話題等

「群馬県みどりの食料システム基本計画」の推進

みどりの食料システム戦略の実現に向けて、令和4年7月に施行された「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（令和4年法律第37号）」に基づき、令和5年3月に群馬県と県内35市町村とが共同で「群馬県みどりの食料システム基本計画」を策定した。有機農業を含めた環境保全型農業や温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の推進により、農業者の安定的な経営の実現や更なる経営発展が図られるとともに、環境負荷の少ない方式で生産された有機農畜産物等の販路拡大や消費者理解を促進することで、本県農業を環境と調和しながら持続的に発展させることを目指している。

○計画の推進方向

- 1 土づくりと化学肥料・化学合成農薬低減に資する取組推進
- 2 温室効果ガス排出量削減に資する取組推進
- 3 環境負荷低減が期待できる新技術や革新的な技術等の導入促進
- 4 持続可能な食と農の地域循環システムの実現



群馬県みどりの食料システム基本計画

群馬県の農林水産業の話題等（2）

群馬県内の「オーガニックビレッジ宣言」

＜甘楽町＞（令和5年10月20日オーガニックビレッジ宣言）

令和5年度に「甘楽町オーガニック推進協議会」を設立し、令和6年度から今後5年間は、「未来へつなぐ有機農業」を目指して、子どもたちへの食育をはじめ、日々のくらしに溶け込む有機農業を推進し、次代への継承と有機農業のさらなる産地づくりに向けて取り組んでいる。



令和6年12月7日 ぐんまオーガニック
フェスタの様子

＜高山村＞（令和6年2月23日オーガニックビレッジ宣言）

5年後に目指す目標として、自然環境と調和した持続可能な農業をより一層発展させていくことを目標に、有機農業に力を入れ、農地の持つ多面的機能の保全を進める。また、大規模な慣行栽培を行う農業者の有機農業への移行や新規就農者支援の充実を図る。販路拡大の支援策とともに消費者の有機農産物への認知度向上を目指す。これまで地産地消の取り組みとして実施してきた学校給食の地場産食材の使用について、有機農産物を利用する割合を増やすことで新たな販路を獲得する。

＜みなかみ町＞（令和7年3月18日オーガニックビレッジ宣言）

有機農業に取り組む農業者や農地面積が少ない状況にあり、有機農業の栽培技術が普及していないことから、有機農業に取り組む農業者の支援体制を整備、環境負荷低減・資源循環型農業である「みなかみスタイル」に取り組む農業者を増やし、段階的に有機農業の拡大を推進していく。

群馬県の農林水産業の話題等（3）

群馬の強みを活かした野菜生産

群馬県は標高10～1,400mに耕地が広がる恵まれた自然条件を活かし、年間を通じて多彩な野菜生産が行われ、大消費地の100km圏内に位置する立地条件により、首都圏の重要な野菜供給产地となっている。

農林水産省が公表する令和5年産「野菜生産出荷統計」において、本県の野菜の重点8品目である「ほうれんそう」が出荷量及び収穫量日本一位、「キャベツ」が出荷量二位及び収穫量一位、「きゅうり」が出荷量及び収穫量日本二位となっている。

「ほうれんそう」は、平坦地から中山間地まで広く産地が形成されており、標高差を活かした産地間のリレー栽培や、雨よけハウス等による周年栽培が行われている。

「きゅうり」は、ハウスを利用して、促成（1～6月出荷）と抑制（9～11月出荷）の2作型を組み合わせた栽培が行なわれている。

また、県内7農協で出荷規格等を統一した共計販売が行われ、大消費地である京浜市場をはじめ全国各地に出荷されている。

県では、栽培技術の指導やハウス施設・機械の導入を支援するとともに、ポスター等を活用した販売促進、産地紹介の動画を配信し、PR活動に取り組んでいる。



嬬恋村のキャベツ畠

農畜産物・食品の輸出の促進

群馬県農畜産物等輸出推進機構を構成し、地域農産物やその加工品等の販路について開拓するため、本県の実情にあった輸出対策の基本理念を形成し、輸出の事業活動を展開することにより、本県の農業や食品産業の育成と活性化を促進している。

令和5年群馬県農畜産物等の輸出金額は、前年を上回る15億3,900万円（前年比103.6%）となり、近年、健康食品として認知度が向上している「こんにゃく加工品」や、牛肉が順調に増加したこと等により、前年を上回った。

・こんにゃく加工品は、近年、健康食品として海外での認知度が向上してきており、輸出額は前年比114.8%となった。

・畜産物は、牛肉の欧州及び北米向けの輸出が好調であり、輸出額は前年と比べ増加した。

県産野菜の輸出については、東アジアを中心にバイヤー招へい商談会や現地PR販売等を継続的に実施した結果、多くの品目が通常取扱品として定着し、輸出額も年々増加している。一方、海外からの需要はあるものの、輸出に取り組む生産者、生産量が十分にない現状にある。

今後は、海外の実需者が求める品目・品質に応じた生産を推進するとともに、生産者団体等と連携し、輸出に取り組む生産者の掘り起こしを図るなど、輸出促進対策を強化する必要がある。また、輸出先国・地域を拡大するなど、新たな販路開拓も積極的に進めていく。



「日本の食品」輸出EXPOに群馬県ブース出展
(令和6年11月27日～29日) 幕張メッセ

群馬県拠点管内図

群馬県は、日本列島のほぼ中央にあって、関東平野の北西部に位置し、県土の約3分の2を丘陵山岳地帯が占め、変化に富んだ地形をなしている。平坦地域では年間日照時間が多く、特に冬季には「からつ風」の名で称される北西の季節風が強く吹き、乾燥した天気が続く地域である。

また、豊かな自然環境や温泉等地域資源が豊富なため、観光業も盛んである。

〔県人口：188万人、県面積：6,362km²〕

資料：群馬県(7.2.1現在)、
国土地理院(6.10.1現在)



群馬県の農林水産業の概要

群馬県は、県土の約3分の2を丘陵山岳地帯が占め、変化に富んだ地形をなしている。平坦地域では年間日照時間が長く、特に冬季には「からつ風」と呼ばれる北西の季節風が強く吹き、乾燥した天気が続く地域である。

利根川水系などの豊富な水資源や、大きな標高差の中に耕地が分布する等の恵まれた自然条件、大消費地に近いという有利な立地条件を活かし、多彩な農業が展開され、野菜や畜産（豚、生乳）などの産地となっている。

群馬県の産業構造は、製造業の割合が高く、高い技術力をもった企業が多い。県内の上位産業を生産額でみると、自動車製造業をはじめとする「輸送用機械器具製造業」の割合が最も高く、次いで「食料品製造業」となっている。

特産物のこんにゃくいもは、全国収穫量の97%を占め、群馬県の中山間地域における基幹作物となっており、関連産業（製粉、加工、流通）も含め、地域経済に大きな役割を果たしている。また、キャベツ（嬬恋村など）、ほうれんそう（東部・利根沼田地域）の収穫量が全国1位、きゅうり（中部・東部の平坦地域）の収穫量は全国2位となっている。

畜産は、乳用牛・豚のいずれも飼養頭数が全国で5位以内に入るほど盛んである。

花きは、平坦地から中山間地まで地域特性に応じて、バラ・シクラメンをはじめ、多様な品目の栽培に取り組んでいる。

輸出では、和牛が、ヨーロッパ、アメリカ、アジア等多くの国・地域に輸出されている。こんにゃく製品は、近年、健康志向の高まりを受け、各国・地域への輸出が伸びている。

県農政の基本指針である「群馬県農業農村振興計画2021-2025」に基づき、基本目標「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」に向けて、成長産業として農業の持続的な発展を促進する「産業政策」と、農業・農村の有する多面的機能の発揮や農村の持続的な発展を促進する「地域政策」を車の両輪として推進する。

本県の農業と農村が持つ可能性を最大限引き出し、未来に向けて農業者が元気に躍動し、持続的に発展することを目指す。



こんにゃくいも

群馬県の特産物で、収穫量は全国の97%を占めている。新商品の開発や輸出に積極的に取り組んでいる。
(収穫量全国1位)



きゅうり

県東部地域を中心に栽培されており、収穫量は全国の10%を占めている。
(収穫量全国2位)



ねぎ

秋冬ねぎを中心に栽培されている。また、下仁田ねぎは県西部地域の特産品として栽培されている。
(収穫量全国6位)



生しいたけ

県西部地域を中心に菌床栽培や原木栽培が盛んに行われている。
(生産量全国3位)



豚

県中部、東部地域を中心に飼養され、全国有数の飼養頭数を誇っている。
(飼養頭数全国4位)



キャベツ

嬬恋村などを中心に栽培されており、収穫量は全国の20%を占めている。
(収穫量全国1位)



ほうれんそう

年間を通して晴天が多く、県内各地で施設・露地栽培が盛んである。
(収穫量全国1位)



うめ

県西部の高崎市榛名地区、安中市秋間地区及び箕郷地区を中心に産地が形成されている。
(収穫量全国2位)



生乳

赤城山麓（県中部地域）を中心に乳用牛が飼養されており、全国有数の生産量を誇っている。
(生産量全国4位)



繭

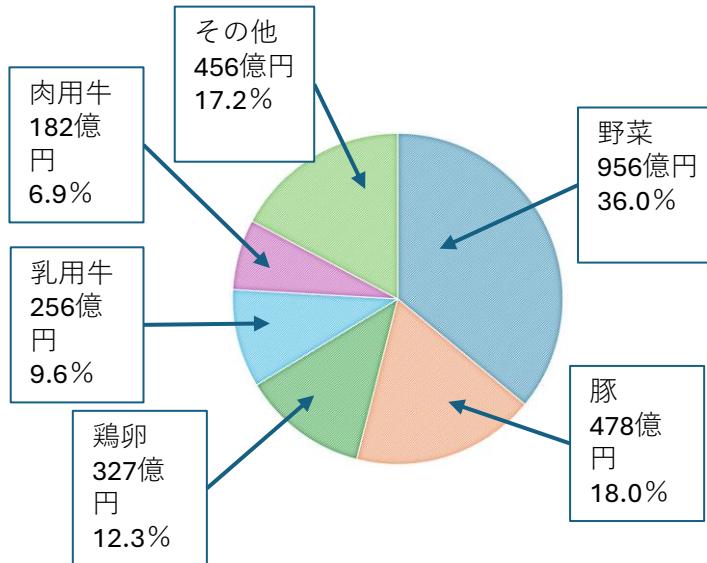
富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産に登録され、シルク製品が注目されている。
(生産量全国1位)



データで見る群馬県の農林水産業

- 農業産出額は2,655億円で全国12位。うち米が153億円（5.8%）、野菜が956億円（36.0%）、畜産が1,319億円（49.7%）。
- 農畜産物の生産状況は、こんにゃくいも、キャベツ、ほうれんそう、繭が全国1位、きゅうり、ふき、うめが2位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区分	年次	群馬県	全国	全国順位
こんにゃくいも	収穫量	R 6	49,700 トン	51,400 トン 1 *
キャベツ	収穫量	R 5	282,900 トン	1,434,000 トン 1
きゅうり	収穫量	R 5	53,900 トン	529,200 トン 2
ほうれんそう	収穫量	R 5	22,400 トン	206,800 トン 1
ねぎ	収穫量	R 5	18,400 トン	416,200 トン 6
ふき	収穫量	R 5	852 トン	6,960 トン 2
うめ	収穫量	R 6	4,150 トン	51,600 トン 2
豚	飼育頭数	R 6	610,800 頭	8,798,000 頭 4
生乳	生産量	R 6	204,542 トン	7,357,451 トン 4
繭	生産量	R 5	18 トン	45 トン 1

農業産出額のデータ

区分	群馬県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	2,655 億円 (100.0)	94,952 億円 (100.0)	12
米	153 億円 (5.8)	15,193 億円 (16.0)	33
麦類	23 億円	678 億円	5 *
雑穀	1 億円	77 億円	12
豆類	2 億円	572 億円	27
いも類	6 億円	2,301 億円	30
野菜	956 億円 (36.0)	23,243 億円 (24.5)	7
果実	76 億円 (2.9)	9,590 億円 (10.1)	30
花き	56 億円	3,522 億円	21
工芸農作物	49 億円	1,467 億円	6
その他作物	12 億円	585 億円	12 *
畜産	1,319 億円 (49.7)	37,212 億円 (39.2)	9
肉用牛	182 億円	7,696 億円	12
乳用牛	256 億円	9,249 億円	4
生乳	233 億円	8,310 億円	6
豚	478 億円	7,194 億円	5
鶏	388 億円	12,033 億円	12
鶏卵	327 億円	7,413 億円	8
ブロイラー	48 億円	4,471 億円	17 *
その他畜産物	15 億円	1,041 億円	5
加工農産物	1 億円	513 億円	28

出典：「令和5年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和5年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」
注：()は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用・表中に使用した記号は次のとおり

「0」：単位に満たないもの（例：0.4 t → 0 t）

「-」：事実のないもの「...」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

データで見る群馬県の農林水産業（2）

- ・耕地面積は6万3,200haで全国19位。うち田が2万3,500ha、畑が3万9,700ha。
- ・農業経営体数は2万298経営体で全国25位。うち法人経営体が739経営体で13位。
- ・市町村認定及び都道府県認定経営体数は4,570経営体で全国19位。うち法人数が662法人で17位。
- ・農業生産関連事業は、観光農園の年間販売（売上）金額が16億円で全国8位、経営体数は260経営体で4位。

耕地面積

区分	群馬県	全国	全国順位
耕地面積	63,200 ha	4,272,000 ha	19
田	23,500 ha	2,319,000 ha	32
畑	39,700 ha	1,952,000 ha	8
普通畑	36,000 ha	1,118,000 ha	6
樹園地	2,670 ha	248,600 ha	29
牧草地	1,040 ha	585,900 ha	17
参考) 総土地面積	6,362.28 km ²	377,975.68 km ²	21

出典：「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和7年全国都道府県市町村別面積調(1月1日時点)」
(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区分	群馬県	全国	全国順位
荒廃農地面積	8,995 ha	256,676 ha	10

出典：「令和5年度の荒廃農地面積(令和6年3月31日現在)」

農業経営体数、総農家数及び集落営農数

区分	群馬県	全国	全国順位
農業経営体数	20,298 経営体	1,075,705 経営体	25
法人経営体	739 経営体	30,707 経営体	13
総農家数	42,275 戸	1,747,079 戸	17
販売農家	19,405 戸	1,027,892 戸	25
参考) 世帯総数	805,252 世帯	55,830,154 世帯	17
集落営農数	117 集落営農	13,998 集落営農	32

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和6年集落農業実態調査結果(令和6年2月1日現在)」

扱い手への農地の集積状況

区分	群馬県	全国	全国順位
扱い手への集積面積	27,930 ha	2,593,345 ha	21
集積率	43.8 %	60.4 %	22

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	群馬県	全国	全国順位
基幹的農業従事者数	27,832 人	1,363,038 人	23
男	16,773 人	822,144 人	23
女	11,059 人	540,894 人	23
65歳以上	19,060 人	948,621 人	24
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	68.5 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	4,570 経営体	216,784 経営体	19
法人数	662 法人	29,128 法人	17
参考) 人口総数	1,939,110 人	126,146,099 人	18

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和6年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	群馬県	全国	全国順位
農産加工	総額 28,564 百万円	999,786 百万円	12
	事業体数 640 事業体	27,760 事業体	18
農産物直売所	総額 32,473 百万円	1,126,420 百万円	10
	事業体数 850 事業体	21,240 事業体	5
観光農園	総額 1,637 百万円	37,281 百万円	8
	経営体数 260 経営体	5,050 経営体	4
農家民宿	総額 258 百万円	5,352 百万円	6 *
	経営体数 20 経営体	1,140 経営体	14
農家レストラン	総額 891 百万円	39,434 百万円	18 *
	事業体数 20 事業体	1,360 事業体	21

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

データで見る群馬県の農林水産業（林業）

- ・林業産出額は68.2億円で全国25位。うち木材生産が23.9億円、栽培きのこ類生産が44.2億円。
- ・林産物の生産状況は、素材生産量が全国27位、生しいたけが全国3位、生きくらげ類が5位、まいたけが6位、なめこが8位。

林業産出額

区分	群馬県	全国	全国順位
林業産出額	68.2 億円	5,562.5 億円	25
木材生産	23.9 億円	3,257.0 億円	27
栽培きのこ類生産	44.2 億円	2,199.2 億円	12

出典：「令和5年林業産出額」

林業の生産状況

区分	群馬県	全国	全国順位
素材生産量	200 千m ³	20,647 千m ³	27
針葉樹	174 千m ³	18,926 千m ³	26 *
すぎ	130 千m ³	11,917 千m ³	24
あかまつ・くろまつ	2 千m ³	494 千m ³	19
広葉樹	26 千m ³	1,721 千m ³	15 *
生しいたけ	生産量	3,912 t	3
なめこ	生産量	814 t	8 *
まいたけ	生産量	1,247 t	6 *
生きくらげ類	生産量	92 t	5 *

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

林野面積

区分	群馬県	全国	全国順位
林野面積	409,098 ha	24,770,201 ha	21
国有林	178,537 ha	7,153,338 ha	9
民有林	230,561 ha	17,616,863 ha	31
人工林面積	176,816 ha	10,133,111 ha	25

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

製材工場数

区分	群馬県	全国	全国順位
製材工場数	78 工場	3,749 工場	22
製材用素材の入荷があった工場数	78 工場	3,722 工場	22
国産材のみ	70 工場	3,116 工場	19
国産材と輸入材	8 工場	511 工場	26

出典：「令和5年木材統計」

林業経営対数

区分	群馬県	全国	全国順位
林業経営体数	358 経営体	34,001 経営体	33
法人経営体	76 経営体	4,093 経営体	21

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

データで見る群馬県の農林水産業（漁業）

- ・水産物の生産状況は、内水面漁業のふなが全国12位、内水面養殖業のにじますが9位。

漁業産出額

区分	群馬県	全国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	- 億円	15,265 億円	-
海面漁業	- 億円	9,534 億円	-
海面養殖業	- 億円	5,731 億円	-

出典:「令和5年漁業産出額」

水産物の生産状況

区分	群馬県	全国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	… t	3,777,921 t	- *
海面漁業漁獲量	… t	2,926,411 t	-
海面養殖業収穫量	… t	851,509 t	- *
内水面漁業・養殖業生産量	301 t	51,908 t	21 *
内水面漁業漁獲量	2 t	21,567 t	36 *
ふな	1 t	284 t	12 *
内水面養殖業収穫量	299 t	30,341 t	16 *
にじます	168 t	4,734 t	9 *

出典:「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業経営対数

区分	群馬県	全国	全国順位
海面漁業経営体数	0 経営体	65,662 経営体	-
内水面漁業経営体数	42 経営体	4,076 経営体	26

出典:「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区分	群馬県	全国	全国順位
海面漁業就業者数	0 人	121,389 人	-
男	0 人	109,757 人	-
女	0 人	11,632 人	-

出典:「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区分	群馬県	全国	全国順位
漁船隻数	0 隻	109,283 隻	-
動力漁船	0 隻	58,906 隻	-

出典:「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区分	群馬県	全国	全国順位
水産加工	総額	- 百万円	179,159 百万円
	事業体数	- 事業体	1,220 事業体
水産物直売所	総額	- 百万円	34,988 百万円
	事業体数	- 事業体	810 事業体
漁家民宿	総額	- 百万円	5,389 百万円
	事業体数	- 経営体	540 経営体
漁家レストラン	総額	- 百万円	13,249 百万円
	事業体数	- 事業体	380 事業体

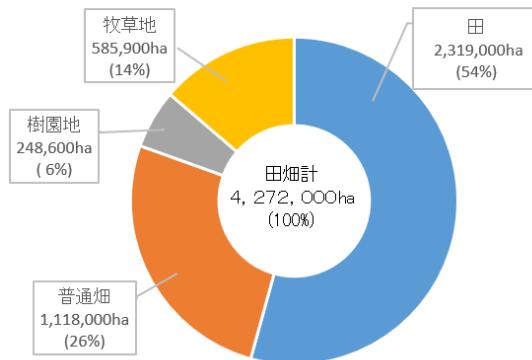
出典:「令和5年度6次産業化総合調査結果」

群馬の耕地

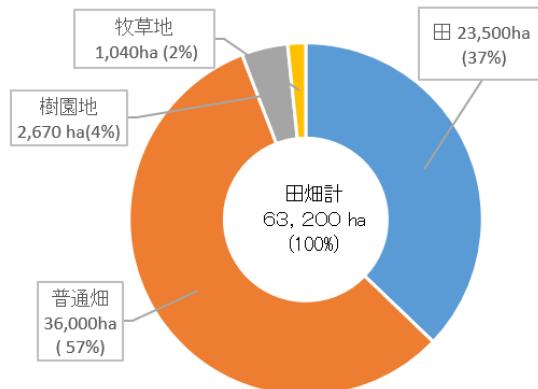
令和6年の耕地面積における畠地面積割合は、全国が45.7%に対して、群馬県は62.8%と、全国に比べて畠地が多い。群馬県の荒廃農地面積は令和2年以降減少に転じたが、令和5年は8,995haと増加した。

◎ 群馬県の耕地面積

耕地面積(令和6年)(全国)



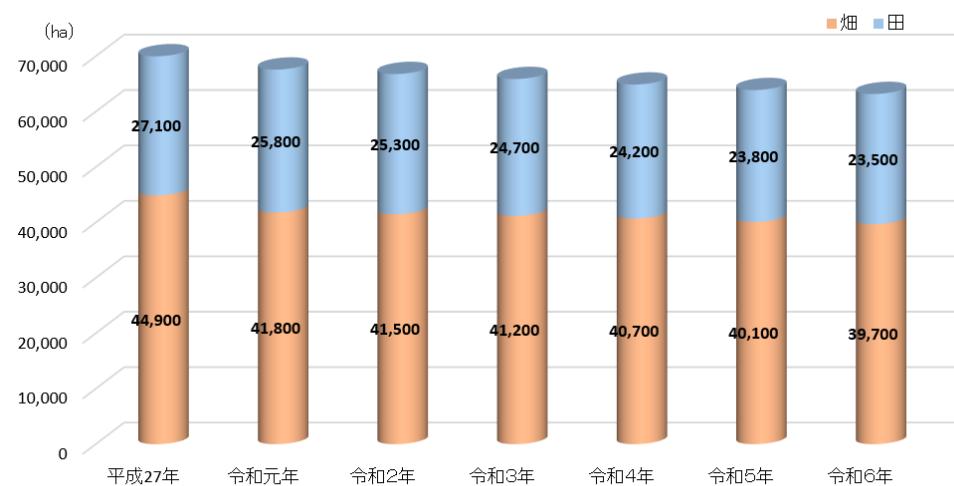
耕地面積(令和6年)(群馬県)



資料:令和6年耕地面積

◎ 群馬県の耕地面積の推移

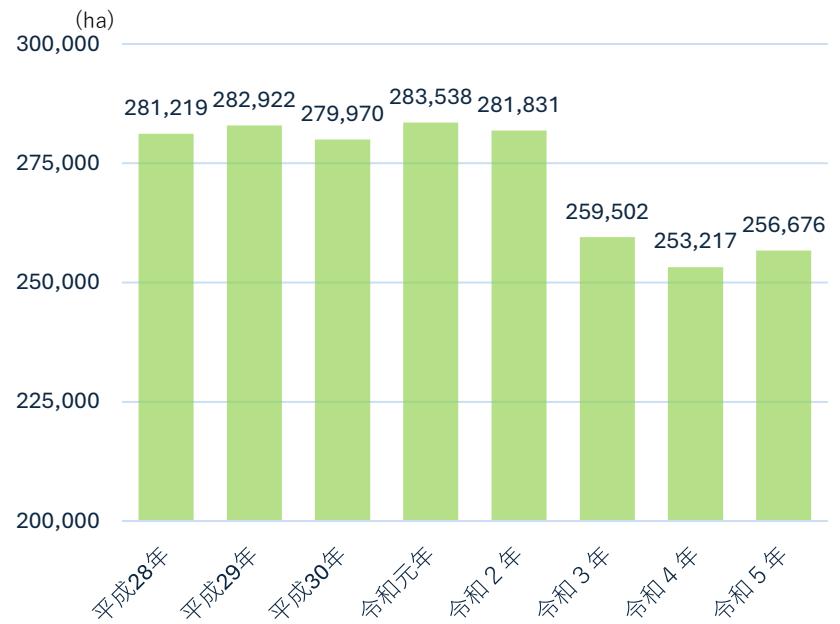
耕地面積の推移(群馬県)



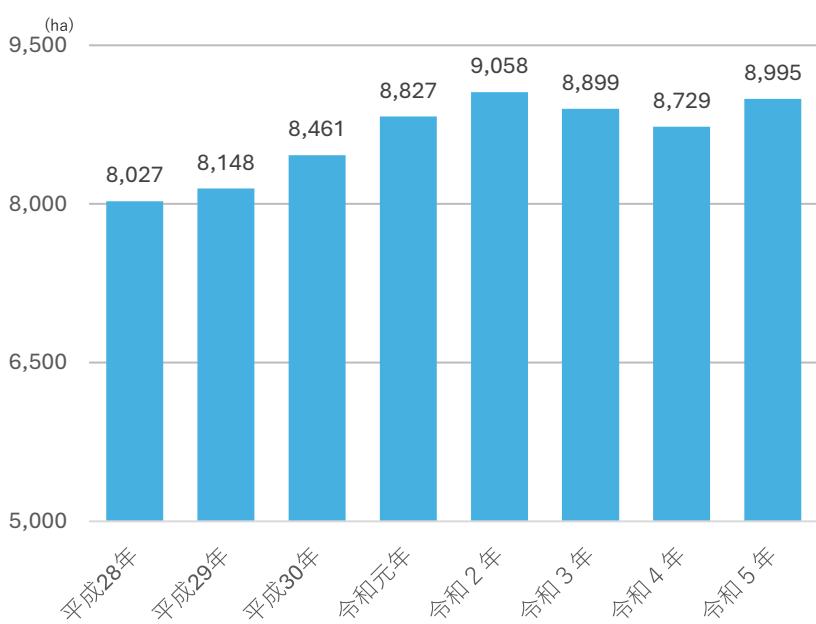
◎ 群馬県の荒廃農地面積の推移

群馬県の荒廃農地面積は令和2年以降減少に転じたが、令和5年は8,995haと増加した。

荒廃農地面積の推移（全国）



荒廃農地面積の推移（群馬県）

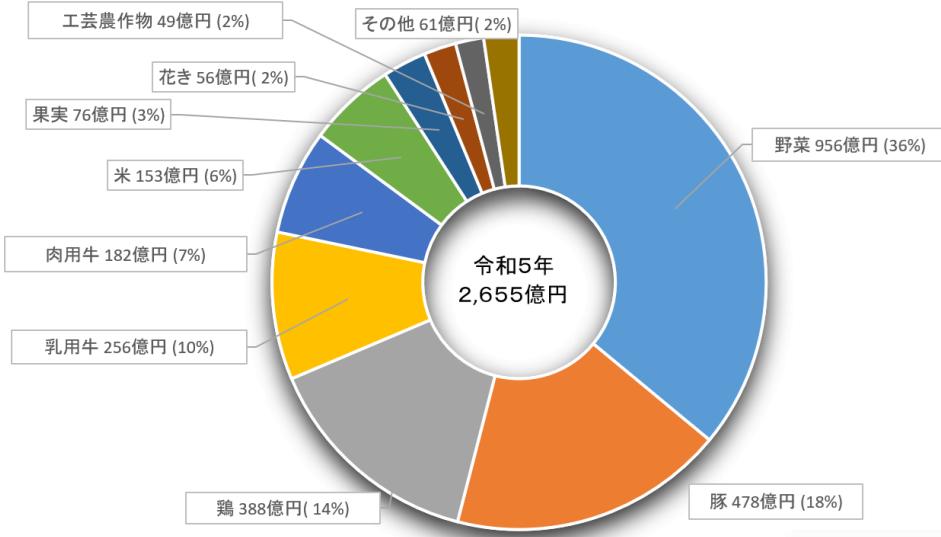


群馬県の農業産出額

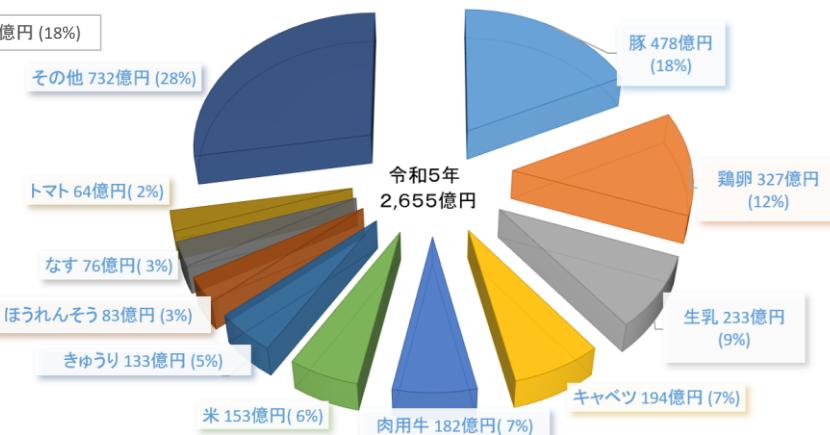
◎ 群馬県の農業産出額と主な農産物

令和5年の農業産出額は2,655億円で、全国12位。内訳は、野菜36%、豚18%、鶏14%、乳用牛10%。品目別に見ると、豚18%、鶏卵12%、生乳9%、キャベツ及び肉用牛7%

令和5年農業産出額の部門別割合



令和5年農業産出額の品目別割合



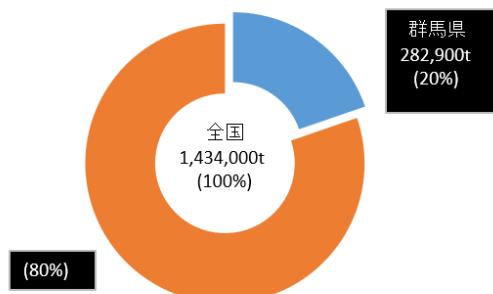
資料:令和5年 農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)

群馬県の収穫量

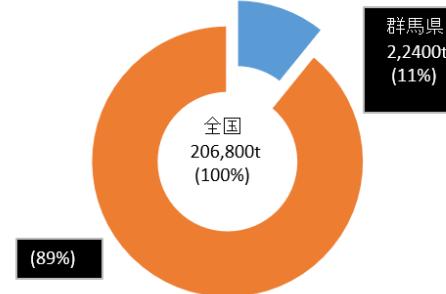
◎ 群馬県の主要品目の収穫量等

野菜の全国に占める割合の高い品目は、キャベツ20%、ほうれんそう及びレタス11%、きゅうり及びなす10% 地域特産野菜では、うど32%

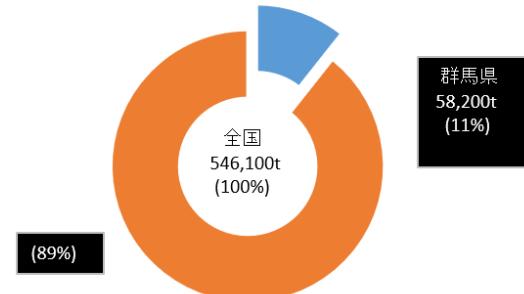
キャベツの収穫量



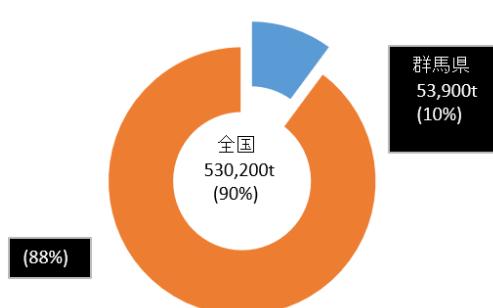
ほうれんそうの収穫量



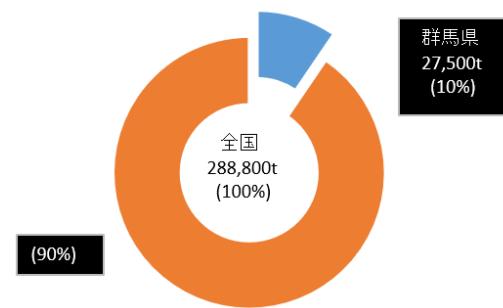
レタスの収穫量



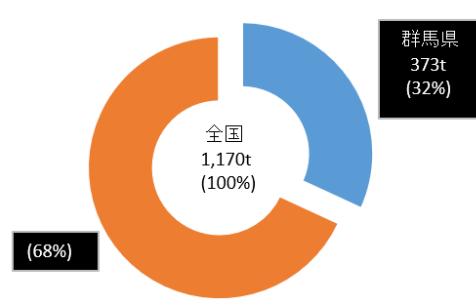
きゅうりの収穫量



なすの収穫量



うどの収穫量



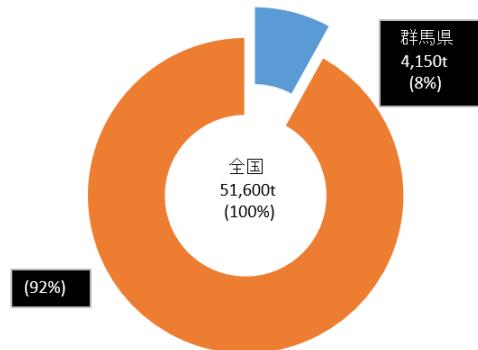
資料：令和5年産野菜生産出荷統計、令和4年産地域特産野菜生産状況

◎ 群馬県の主要品目の収穫量等（つづき）

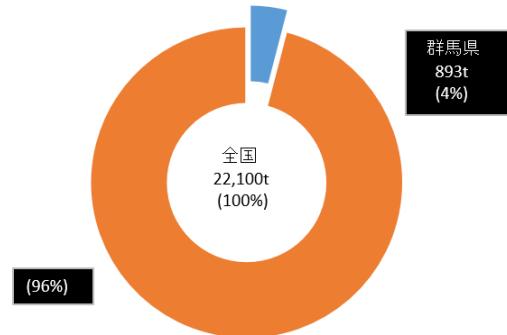
果樹の全国に占める割合の高い品目は、うめ8%、キウイフルーツ4%、りんご1%
る割合の高い品目は、こんにゃくいも95%、ばら5%
特用林産物の全国に占める割合の高い品目は、生しいたけ6%

工芸農作物、花きの全国に占め

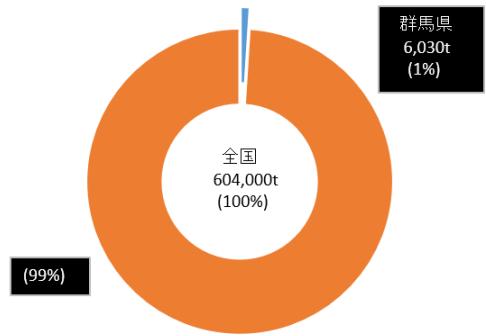
うめの収穫量



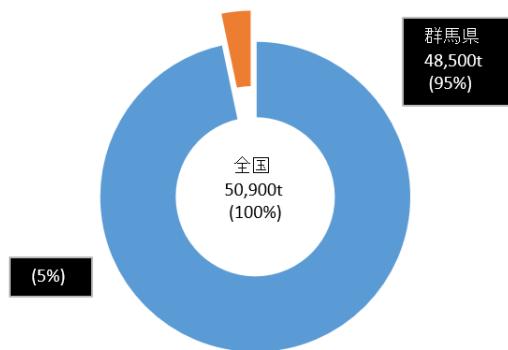
キウイフルーツの収穫量



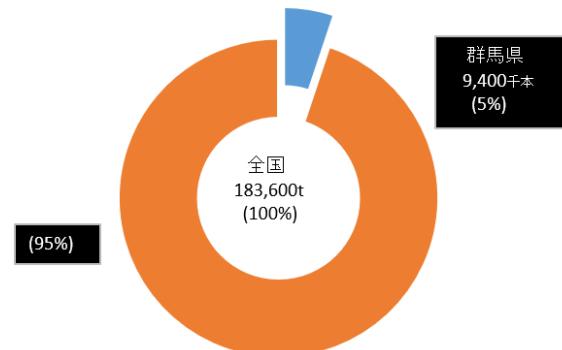
りんごの収穫量



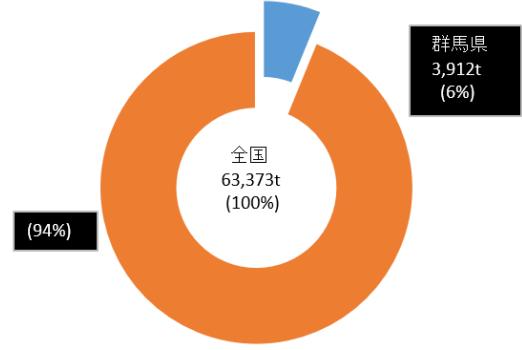
こんにゃくいもの収穫量



ばらの出荷量



生しいたけの生産量



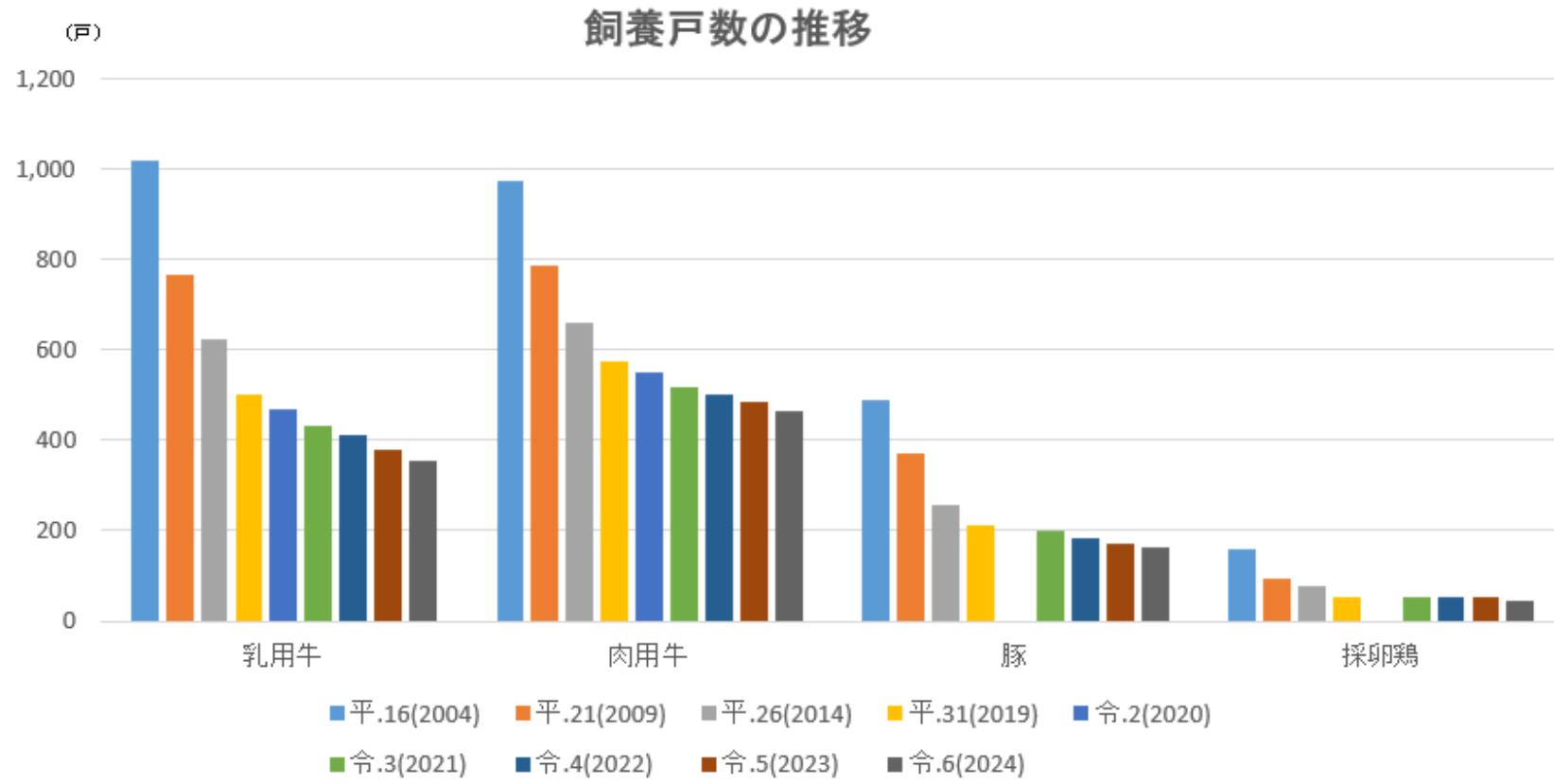
群馬県の畜産

◎ 群馬県の畜産動向

乳用牛飼養戸数・頭数は減少傾向で推移、近年生乳生産量は207千トン前後で推移していたが、令和5年は201千トンと減少。

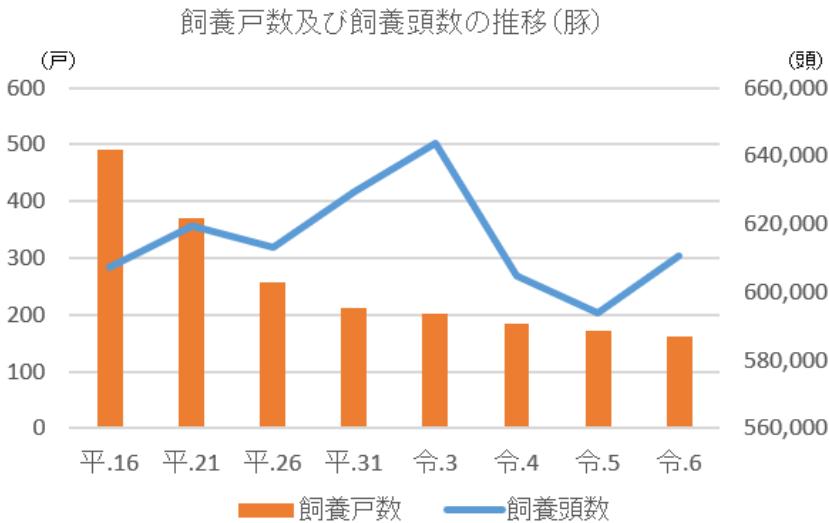
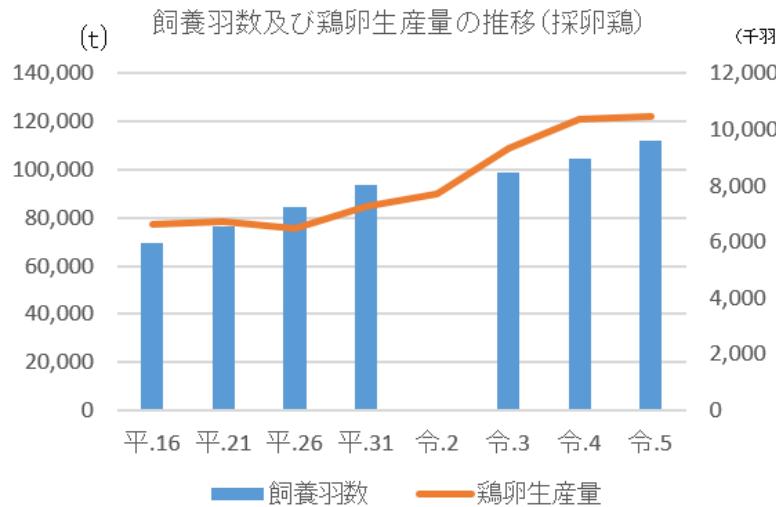
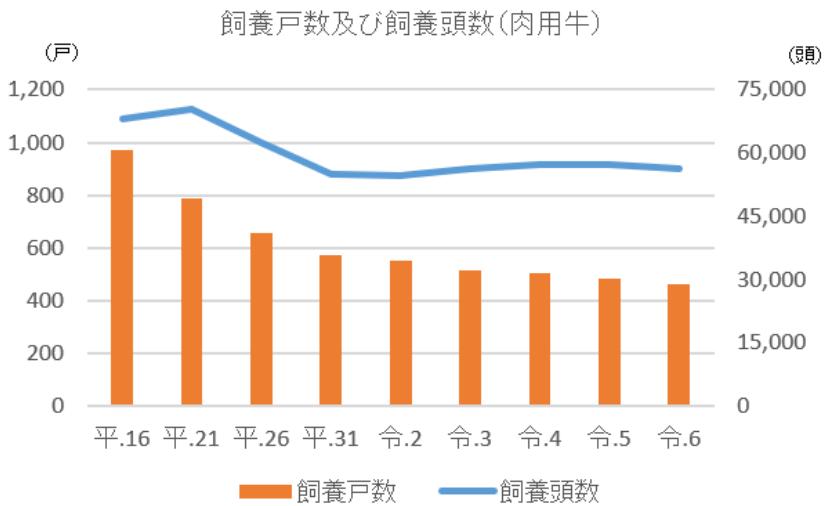
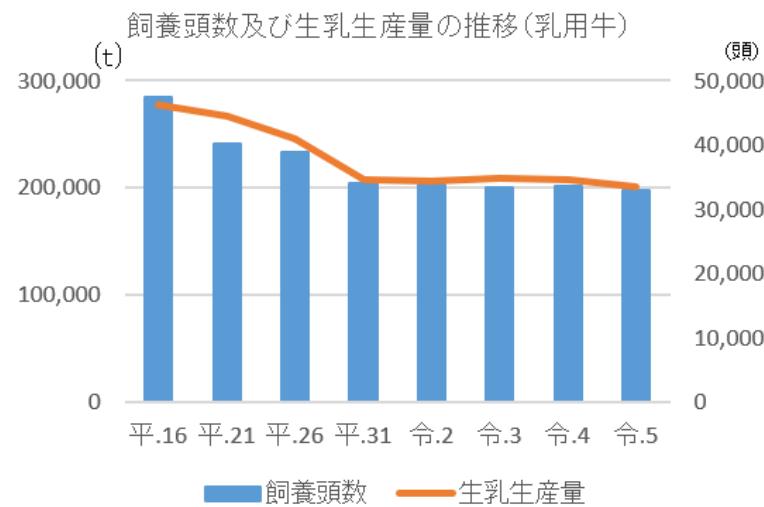
国内の鶏卵生産量は令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症や高病原性鶏インフルエンザの発生による影響から減少。県内の鶏卵生産量は、令和3年10万トンを超え増加傾向で推移。

※令和2年のデータ欠損は、農林業センサス実施に伴う調査休止年である。



資料：畜産統計（各年2月1日現在）、牛乳乳製品統計、鶏卵流通統計

◎ 群馬県の畜産動向（つづき）



資料：畜産統計（各年2月1日現在）、牛乳乳製品統計、鶏卵流通統計

群馬県の農家数の推移

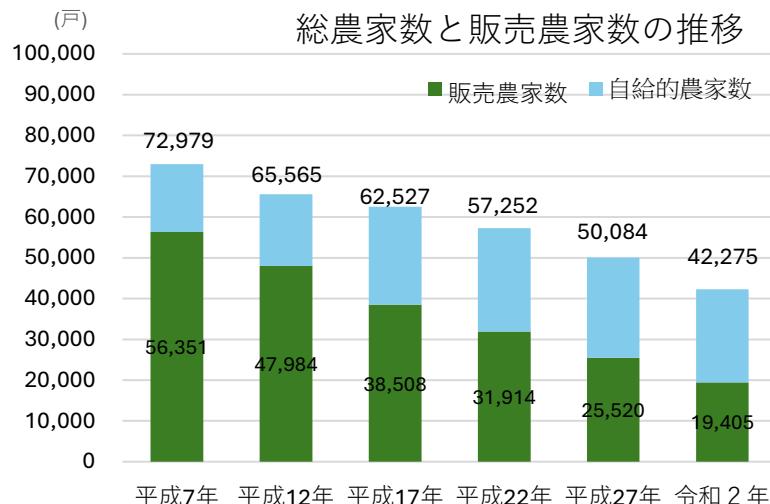
◎ 群馬県の総農家数と販売農家数の推移、基幹的農業従事者数と65歳以上の割合の推移

令和2年の総農家数は42,275戸で平成7年の約6割に減少

販売農家数は、19,405戸と約3割まで減少

令和2年の基幹的農業従事者数は27,832人で平成7年の約4割に減少

基幹的農業従事者数に対する65歳以上の割合は、令和2年には68.5%で上昇傾向



資料：2020年農林業センサス



資料：2020年農林業センサス

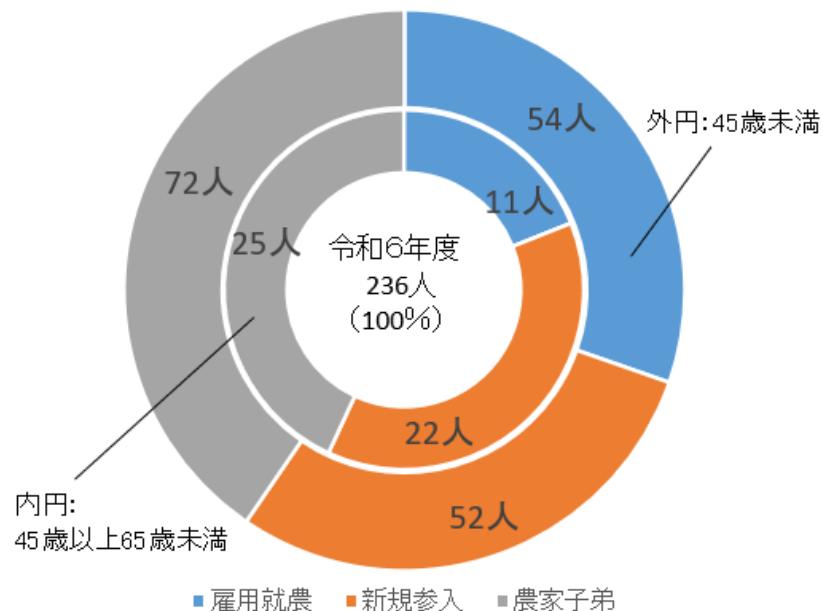
・基幹的農業従事者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者（雇用者は含まない）。

・平成27年までの数値は販売農家、令和2年は個人経営体の数値。

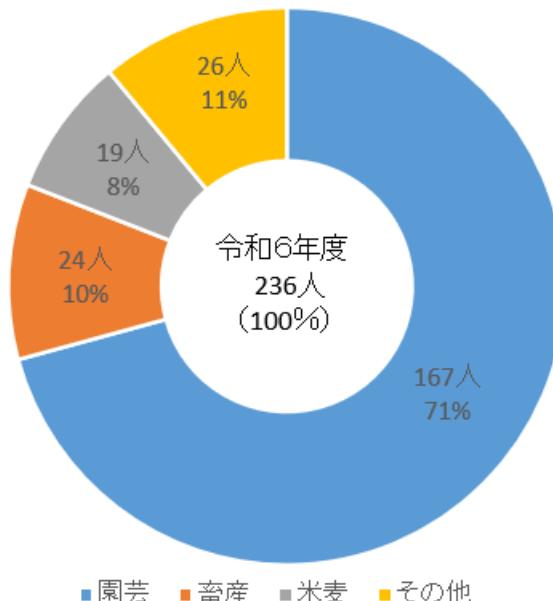
◎ 群馬県の新規就農者数

令和6年度の45歳未満の新規就農者は178人となり前年度から4人増加した。このうち、45歳未満の新規参入者は52人となり過去最高となった。
また、有機農業に取り組む新規就農者は12人で前年度に比べ6人増加した。
45歳以上65以下の新規就農者は58人で前年度より19人減少した。

令和6年度新規就農者数



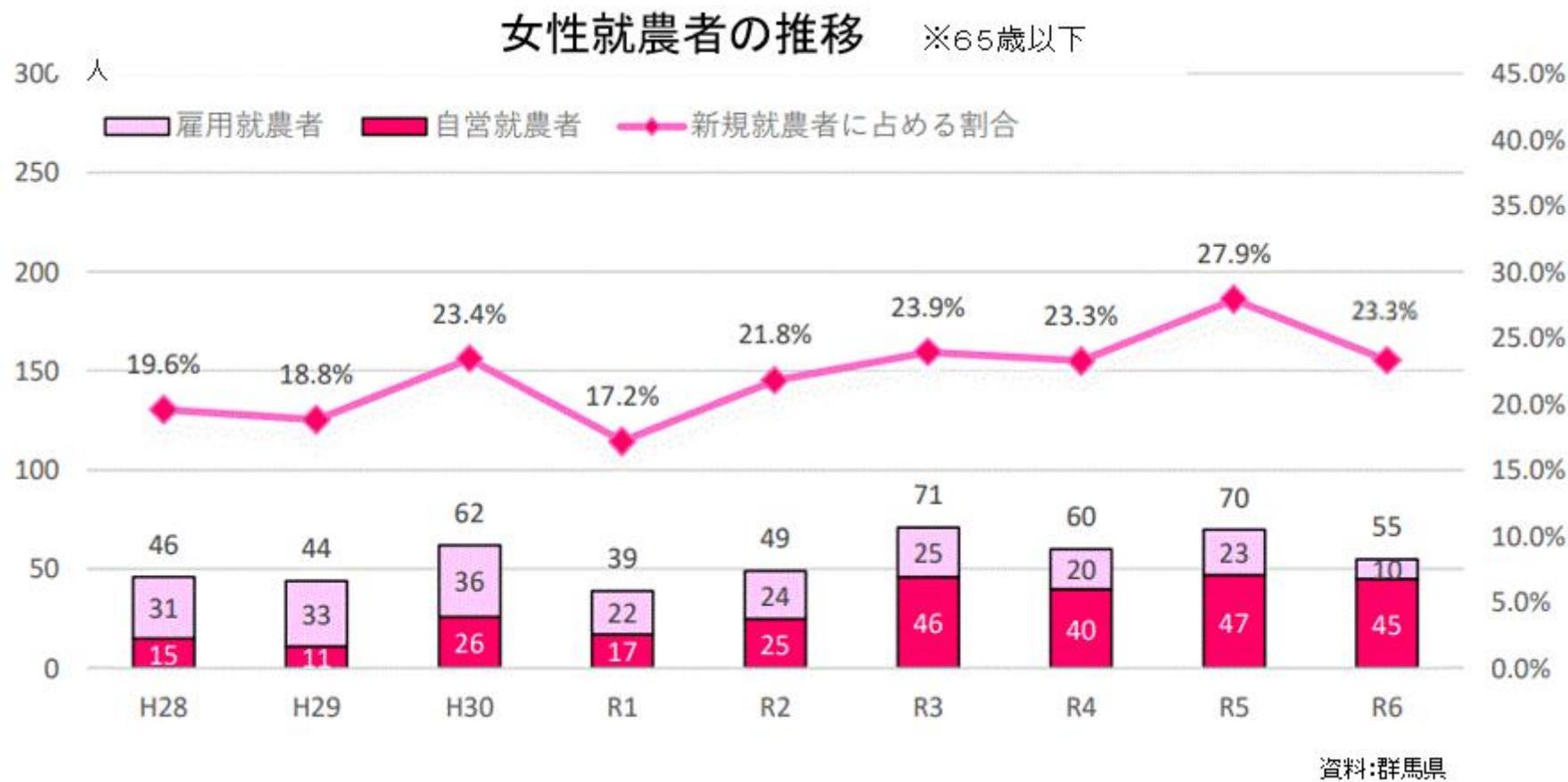
新規就農者の営農部門



資料：群馬県

注1 有機農業とは、有機JAS認証の有無にかかわらず、化学肥料及び化学合成農薬を使用せず、遺伝子組替え技術も利用しない農業のことである。
注2 新規参入者とは、非農家出身者が独立就農、又は農家出身者が実家の経営資源を頼らずに独立就農したことである。

◎ 群馬県の女性就農者の推移



特定産業分野別外国人労働者数（在留資格「特定技能」に限る）

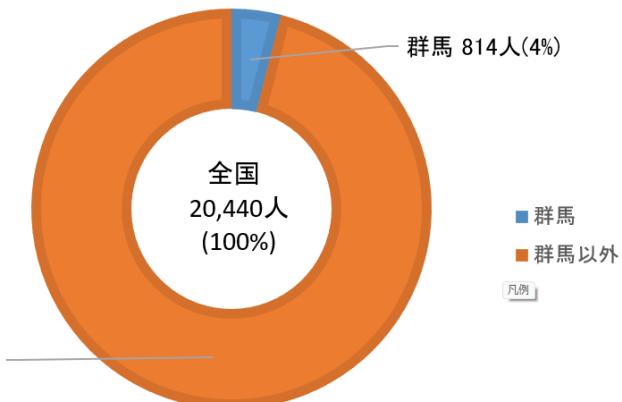
◎ 群馬県の外国人労働者数の推移

令和6年10月末時点の全国の特定産業分野別外国人労働者数は206,995人、うち農業分野は20,440人（9.9%）。

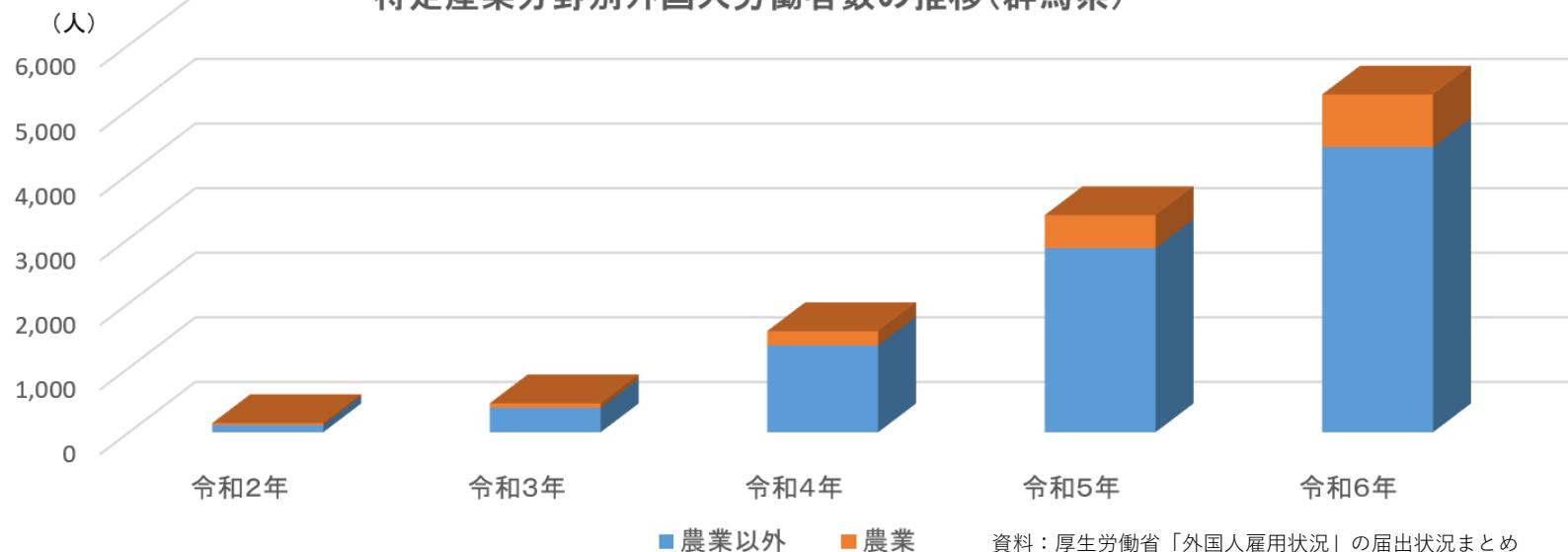
群馬県における特定産業分野別外国人労働者は令和3年以降増加傾向であるが、農業分野の割合は15%前後で推移。

群馬県の農業分野外国人労働者は814人で、全国に占める割合は4%。

令和6年10月末特定産業分野別外国人労働者数（農業）



特定産業分野別外国人労働者数の推移（群馬県）



◎ 特定技能人材による産地間人材リレーの取組事例

特定技能人材による産地間人材リレーの取組事例

2023年3月、宮崎県農業経営者法人協会、嬬恋キャベツ振興事業協同組合及び登録支援機関(ウィルテック)の3者で連携協定を締結、産地間リレーによる人材融通の取組を開始。

【連携協定の内容】人材の確保・共有、海外人材の受入、就労環境・条件の整備、生活環境の整備等

(株)ウィルテック

- ◇人材の募集・選抜・教育・入国手続き・異動スキーム構築
- ◇人材紹介/派遣・配属対応・管理サポート
- ◇各配属エリアにおける情報/課題の集約/共有等

(一社)宮崎県農業法人経営者協会

嬬恋キャベツ振興事業協同組合

- ◇各農業法人(農家)ごとの必要人員数の把握/共有
- ◇協会員(組合員)に対する情報発信/窓口業務
- ◇受入環境/時期に関する整備の課題整理等



宮崎県

(野菜・果物等:11~3月頃)



資料：宮崎県

【実績】 2023年度 6社46名
2024年度 9社56名（見込み）
※収穫期等の農繁期の労働力として増加

群馬県等(北関東エリア)
(キャベツ、レタス:4~10月頃)

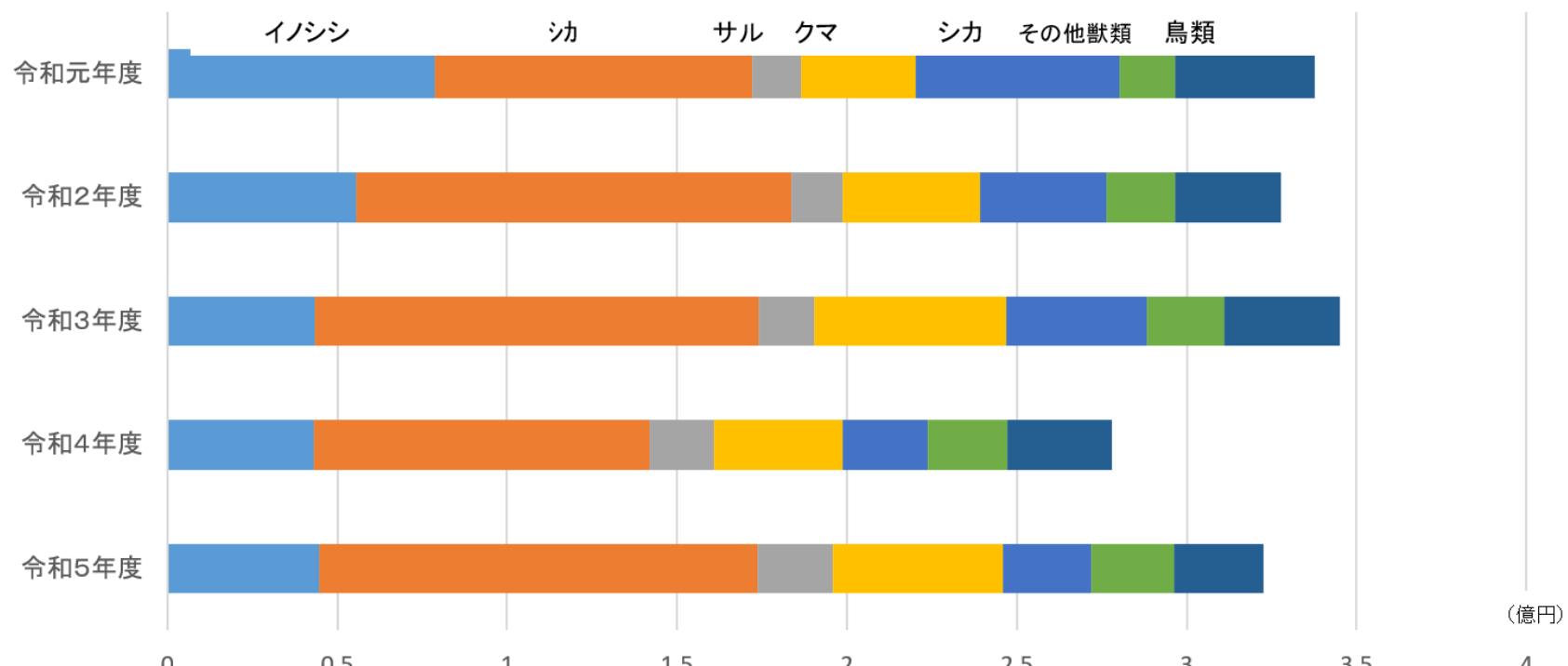


群馬県の野生鳥獣被害の状況

令和5年度の野生鳥獣による農作物被害金額は、3億2千255万円となり、令和4年度比116%。被害面積は吾妻地域、西部地域で約8割。
主な要因は、ニホンジカによる被害の増加。
なお、クマによる被害は令和元年度比約150%。

◎ 農作物の被害金額推移（令和元年～令和5年度）

農作物被害金額の推移



資料：群馬県

◎ 令和5年度農業事務所別被害金額割合



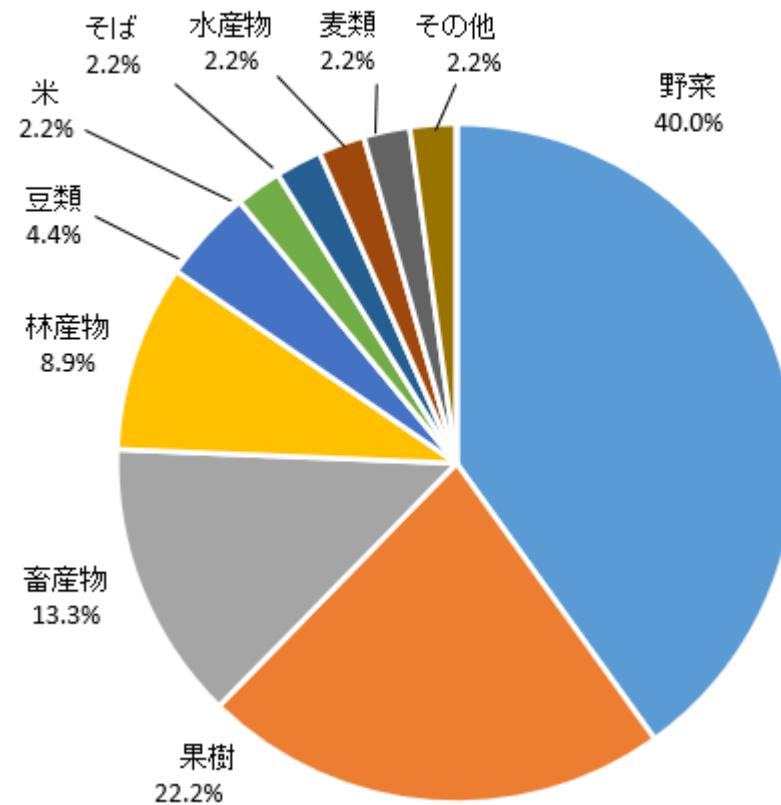
農業事務所	被害額 (千円)	被害面積 (a)
県計	322,551	13038
中部	8,155	466
西部	64,111	5760
東部	26,720	1745
利根沼田	22,911	847
吾妻	200,654	4220

群馬県の六次産業化の状況

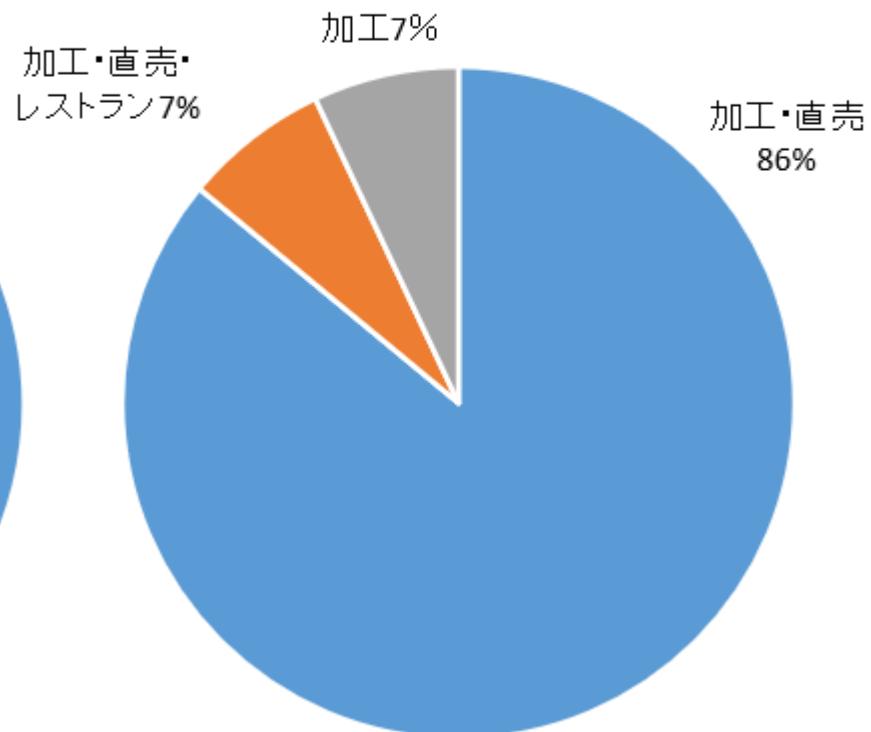
◎ 事業内容の割合

群馬県内の六次産業化・地産地消法に基づく認定事業者は、令和6年2月現在で43業者。事業内容の割合は、加工・直売が全体の86%を占めている。

群馬県における総合化事業計画
の対象農林水産物の割合



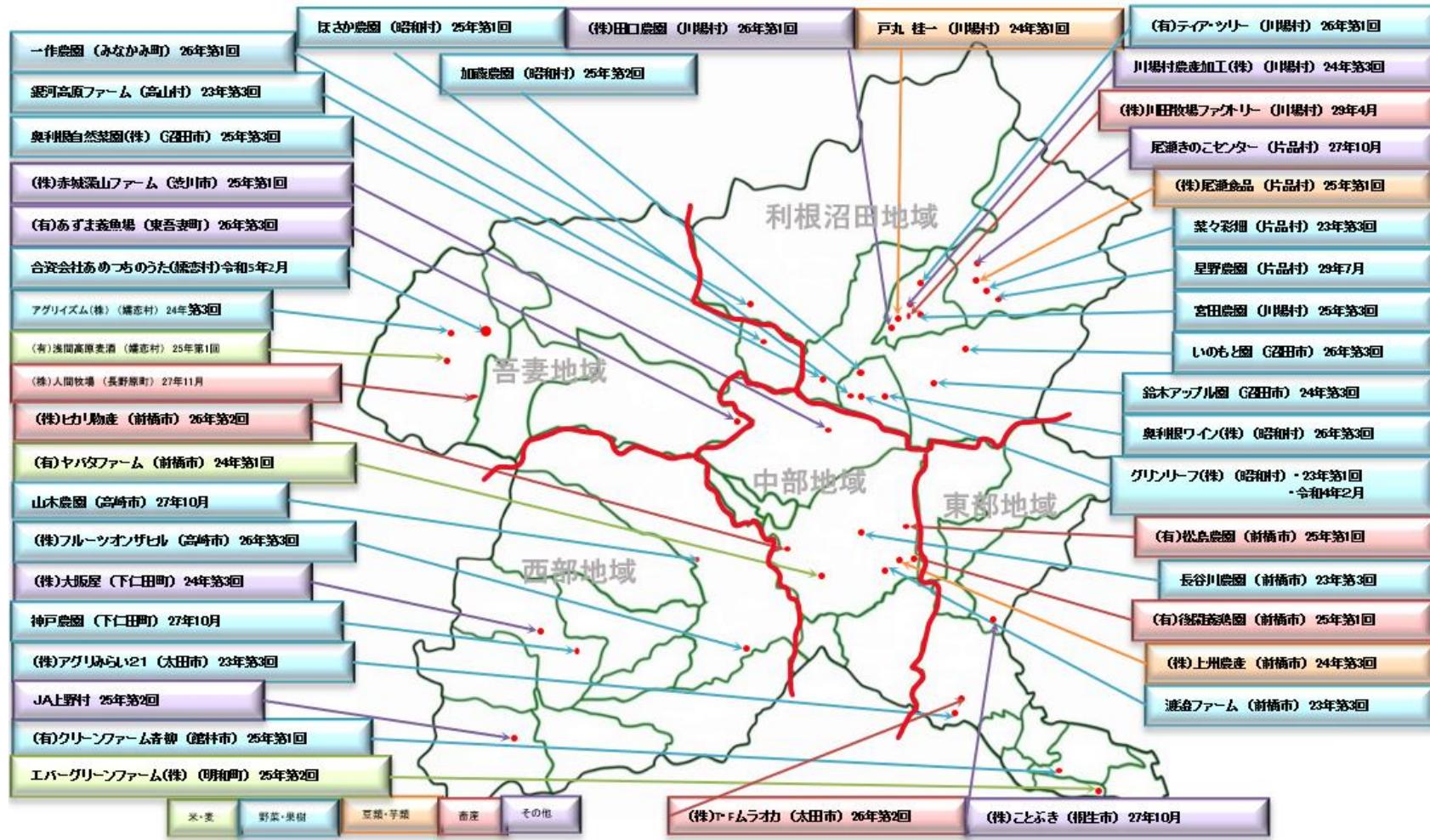
総合化事業計画の事業内容の割合



注：複数の農林水産物を対象としている総合化事業計画は、最も多くを活用する農林水産物とした。

◎ 事業内容の割合

群馬県内の六次産業化法に基づく認定事業者は、利根沼田地域が19事業者と最も多く、中部地域8事業者、吾妻地域6事業者、東部及び西部地域は5事業者となっている。



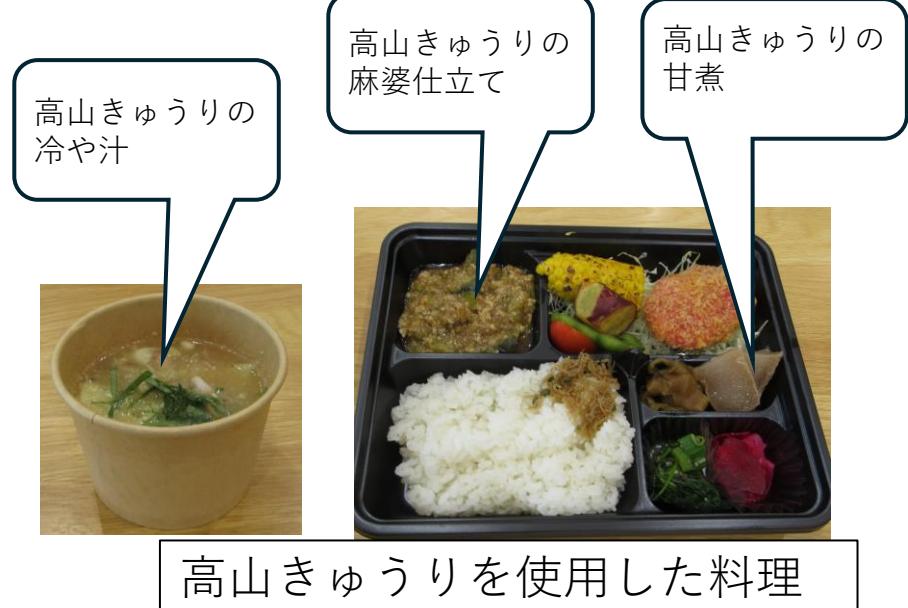
GI（地理的表示保護制度）

◎ 高山村 「高山きゅうり」 令和7年3月18日登録

高山村で栽培されている「高山きゅうり」が令和7年3月18日、群馬県内の農産物として初めてGI登録されました。



高山きゅうりは実がしっかりとしているため、普通のきゅうりのような食べ方の他、加熱する調理方法もあります。また、高山村のカフェではジェラートにしても食べられています。



資料に関するお問い合わせ先

農林水産省関東農政局群馬県拠点
地方参事官室

〒371-0222
群馬県前橋市紅雲町1丁目2番2号
TEL: 027-221-1181 (代表)